作物名

（ 2020 ）年 度 委 託　　（ な し ）

対象病害虫名　ハダニ類（ナミハダニ黄緑型）

試験場名　一般社団法人日本植物防疫協会山梨試験場

担当者氏名　日植防　太郎

1. 試 験 目 的　防除効果及び薬害の検討

2. 試 験 方 法　試験地場所　山梨県山梨市南　日植防山梨場内圃場

対 象 病 害 虫 発 生 状 況　　多→少発生

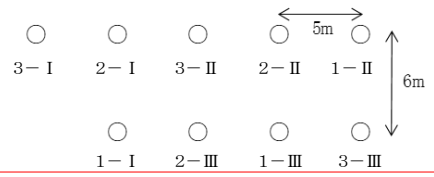
耕種概要（品種・施肥・一般管理・露地栽培か施設栽培（ビニルハウス・雨除け・トンネルなど）の区別、土壌条件・試験期間中の防除薬剤を記載）

品種：幸水　　樹齢：10 年生　　樹高：約 2.5m　　栽植距離：5m×6m　　土性：植壌土

立ち木仕立て　露地栽培　施肥その他一般管理は慣行に準じた。

試験期間中の防除薬剤：8 月 5 日　C 乳剤

区制・面積・試験区の構成　　1 区 1樹　3 連制



処理年月日,量,方法,処理時の作物ステージおよび処理前後の降雨影響

（処理年月日）　2019 年 7 月 25 日　　（処理時お作物のステージ）果実肥大期

（処理方法）　供試薬剤を所定の希釈倍数に調製し、7L/樹の割合で葉の表裏が十分濡れるように背負式バッテリー噴霧機を用いて散布した。

（処理前後の降雨影響）　処理前後に降雨はなかったため影響はなかった。

試験期間中の気象条件

月日	7/25	7/26	7/27	7/28	7/29	7/30	7/31	8/1	8/2	8/3	8/4	8/5	8/6	8/7
平均気温(℃)	26.5	25.8	25.1	27.3	26.9	28.1	29.0	28.2	27.8	28.2	28.9	28.9	29.1	29.8
降水量(mm)	0	0	26	3	0	0.5	0	0	0.5	0.5	0	0	0	0

月日	8/8	8/9	8/10	8/11	8/12	8/13	8/14	8/15	8/16	8/17	8/18	8/19	8/20	8/21
平均気温(℃)	29.4	28.0	29.1	29.2	28.1	27.9	26.4	27.2	26.7	28.1	26.9	26.9	27.2	27.6
降水量(mm)	0	0	0	0	0	0	1.5	0.5	16	0	19.5	6.5	0	0

観測地点：試験場内

調査月日・方法（月日、詳細な方法、指数等を用いた場合は指数分類・式、薬害の判断方法・時期を記載）

（調査月日）処理前日（7 月 24 日）、処理 4 日後（7 月 29 日）、同 7 日後（8 月 1 日）、同 14 日後（8 月 8 日）、同 20 日後（8 月 14 日）、および同 27 日後（8 月 21 日）

（調査方法）区内から寄生葉を任意に 30 葉採取し、ブラッシングマシンを用いて成若幼虫数を実体顕微鏡下で計数した。 防除効率は処理 7、14、20 日後の平均値から下記の計算式により計算した。

防除効率＝100−{無処理区処理前×（処理区 7 日後＋14 日後＋20 日後）

／ 処理区処理前×（無処理区 7 日後＋14 日後＋20 日後）}×100

薬害は、薬害は薬効調査時に茎葉および果実の薬害症状を以下の基準により肉眼で観察した。

−：薬害を認めない。＋：軽微な薬害症状を認める。＋＋：中程度の薬害症状を認める。

＋＋＋：重度の薬害症状を認める。

その他（特記する事項があれば記載。接種または放虫した場合は、採集場所・時期、詳細な方法を記載）

コメントの追加 [WU1]: 学名の表記方法について(例)
2021 年度より学名の記載は省略可能です。
・通常
ナミハダニ黄緑型
・～類での依頼
ハダニ類（ナミハダニ黄緑型）
・複数種を調査した場合
ハダニ類（ナミハダニ黄緑型、カンザワハダニ）
・複数種が混発し、種別の数は分からないものの主たる種が明らかな場合
カメムシ類（クサギカメムシ主体）

コメントの追加 [J2]: 土性の表記について
壌土、砂壌土、砂土など。分からない場合は不明と記述。

コメントの追加 [J3]: 試験期間中の防除薬剤(殺菌又は殺虫剤)について
使用月日、薬剤名を記載。試験開始前であっても試験に影響があると考えられるものは記述する。使用していない場合は「なし」と記載する。

コメントの追加 [J4]: 試験区の構成
・各区の位置関係がわかるように配置図を記載する。

コメントの追加 [J5]: 気象条件について
・試験開始から最終調査日までの平均気温、降水量を表またはグラフで示す。(施設栽培は降水量不要)
・データの引用元を付記する。

コメントの追加 [J6]: 調査月日・調査方法について
薬効と薬害の調査日が異なる場合はそれぞれ記載。
複数処理の場合は最新処理からの日数を記載。
例：第 2 回処理 3 日後、最終処理 7 日後等
調査月日と方法の項目を分けずにまとめても可。
薬害は、いつ、どの部位について観察したかわかるように記述する。グレードは適宜定めてよい。

コメントの追加 [J7]: 特記事項、放虫、生物農薬の品質チェック等
放虫した場合はここに記載。虫の由来(採集時期、場所)や放虫方法(放虫量や場所、薬剤処理との時間的関係)を記載
天敵農薬を使用した場合は使用前の品質についても記入

作物名
（ 2020 ）年 度 委 託　　（ な し ）

対象病害虫名　ハダニ類（ナミハダニ黄緑型）

試験場名　一般社団法人日本植物防疫協会山梨試験場

3. 試 験 成 績

供試薬剤	処理方法	連制	10葉あたり成若幼虫数 処理前日 7/24	同4日後 7/29	同7日後 8/1	同14日後 8/8	同20日後 8/14	同27日後 8/21	防除効率	薬害 7/29,8/1,8 8/14,21
22) Aフロアブル		Ⅰ	496.0	0	0	0	0	0		－
新規化合物 10%	5000倍	Ⅱ	163.0	0	0	0	0	0		－
Lot. No. ABC-1234	散布	Ⅲ	416.0	0	0	0	0	3.3		－
		平均	**358.3**	**0**	**0**	**0**	**0**	**1.1**	**100**	
	補正密度指数			**0**	**0**	**0**	**0**			
対照 B乳剤		Ⅰ	402.0	56.7	39.7	6.7	19.0	1.0		－
既知化合物 20%	1000倍	Ⅱ	249.7	78.3	37.7	19.7	20.7	3.3		－
	散布	Ⅲ	313.7	13.3	7.0	3.3	3.0	3.0		－
		平均	**321.8**	**49.4**	**28.1**	**9.9**	**14.2**	**2.4**	**85**	
	補正密度指数			**14.4**	**13.0**	**8.3**	**107.9**			
無 処 理		Ⅰ	176.7	232.7	145.0	84.7	15.0	1.7		
	－	Ⅱ	312.3	337.0	220.7	189.0	19.3	0		
		Ⅲ	438.3	421.0	259.3	72.0	3.7	0		
		平均	**309.1**	**330.2**	**208.3**	**115.2**	**12.7**	**0.6**	**0**	
	補正密度指数			**100**	**100**	**100**	**100**			

4. 考察

実用性の判定は、処理 7、14、20 日後の成若幼虫数から算出した防除効率で行った。処理 27 日後には天敵（カブリダニ類）の影響と考えられるナミハダニ密度の著しい低下があった。

22) Aフロアブル　5000 倍　散布　AAA-

本処理は、対照処理と比較して優る効果を示し、無処理と比較して効果は高かった。実用性は高いと考えられる。
薬害は認められなかった。

コメントの追加 [J8]: 試験成績について

・結果を表形式で記載。
・連制ごとまたは調査地点ごとに結果を表示し、合計値（または平均値。虫数は原則として合計値とする）も表示する。
・評価するための指数（密度指数、補正密度指数、対無処理比、防除価等）も記載する。
・薬害は調査時期がわかるように表記。
・2021 年度より表中の無処理区の薬害記号は記載不要となりました。

紙面のスペースによっては“後述”と記載し、表を末尾に記載しても可。

コメントの追加 [J9]: 考察について

・実用性の判定は基本的に対無処理判定を重視する。対無処理判定と異なる判定とする際は、その理由を明記する。